



3/23災害対策特別委員会で質問に立ちました！



小此木 防災担当大臣

審議のポイント (大臣所信)

- 防災対応 (防災会議) は女性、障がい者の方など多様な意見を反映するべきである
- 熱中症防止に向けて、熱中症の情報発信や予防行動をしっかりと促すべき
- 災害リスクの高い地域にある施設に対し、安全なエリアへの移転等を支援すべき
- 災害などの有事に対して、迅速かつ的確に対応できる人材育成を図るべき

〇はまぐち誠 の質問・提案

【防災会議について】

〇障がい者の方の意見はどのように反映されているのか？

→東日本大震災において多様な視点が十分ではなかった。防災業務計画において多様な主体の視点が反映されるように自治体に周知を図っていく。(内閣府)

【熱中症対策について】

〇熱中症アラートを高齢者、障がい者、子供たちに確実にしっかりと届けること

またアラートが出た時の予防行動につなげて行く為の対応をどのように行うのか？

→危険性が高いことが予測される日や前日に、国民に情報提供を行う情報発信の取り組みを来月、4月から全国で運用を開始する。(環境省)

【災害リスクの高い施設への対応】

〇10万を超える高齢者施設や学校等が災害リスクの高い地域に立地。国と地方自治体が連携し、安全な地域への移転や、災害時の備蓄品の購入に対して国からもしっかりと支援をするべき

→移転について、令和2年度予算から民間事業者に対する国からの支援額を1.2倍にかさ上げ拡充。令和3年度予算案においても、支援要件の緩和を盛り込んでいる。備蓄購入品に対しても公共団体としっかりと連携し、災害に強い町づくりを支援していく。(国交省)

【防災、減災を担う人材育成】

〇現状どの程度育成されているか？人材育成に対しての計画は？

→国や地方公共団体の職員を対象とした、防災スペシャリスト養成研修を行ったり、内閣府に一定期間派遣していただいて、業務の執行や施設見学などによる人材育成を実施している。(小此木防災担当大臣)